



現場から（最近のニュースから）

さまよい続けますか



6月3日は、カフカが亡くなって100年たったということで、天声人語にカフカの『変身』についての記事がありました。

フランツ・カフカの『変身』は、ある朝、目覚めると「巨大な毒虫」になっていたという文章から始まります。天声人語によると、初期の邦訳では「巨大な毒虫」となっていたけれど、その後で出ている邦訳を見ると、「途方もない虫」「馬鹿でかい虫」「化け物じみた図体の虫けら」となっていたり、「生け贄（にえ）にできないほど汚れた動物あるいは虫」という注釈をつけてあるものなども出ているということです。原語のドイツ語では、ネズミのような小動物を含んだ意味の単語なので、カフカが狙っていたことは何なのかは分からないということです。カフカは、わざわざ出版社に、挿絵には昆虫そのものを描かないようにしてくれと手紙を出したそうなので、あえて、分かりやすいイメージを読者に与えないようにしたのではないかとされています。得体の知れない生き物に自分が変質する、その自分とは何か、変わるとは何なのか、それを問うているのだろうということです。カフカは100年前に40歳で亡くなったのですが、彼が残したことが書いてありました。

「生きることは、たえずわき道にそれていくことだ。本当はどこに向かうはずだったのか、振り返ってみることさえ許されない」（6月3日朝日新聞、天声人語より）

カフカは、自分とは何かも、たえずわき道にそれているようだけれど、本当はどこに向かうはずなのか、まったく分からないまま40年を終えたということでしょう。その迷いがあっても良いのだと、小説を読む人は同感するかもしれませんが、「自分は何か」「正しい道はどこか」「いま、どこに向かっていて、本当はどこに向かうべきなのか」を知ることなく、たださまよって生きるのが人生でしょうか。

自分は何で、正しい道は何であるかが分からずにいると、知らない間に、どんどん滅びと苦しみの中、さまよいの中に入るしかありません。ただ、もがいて苦しむか、あきらめて流されて行くのか、どちらも苦しい人生です。いったい自分について、進むべき道について正しく知ることはできるのでしょうか。人間が考え出したものは、変わって行きます。しかし、いつまでも変わらない真理があります。その真理に基づいて、自分について、歩むべき道について知るなら、さまようことはありません。その道について、いっしょに考えてみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください